

試料・情報利用研究計画書(概要)

審査委員会 受付番号	2020-3004	利用形態	共同研究	利用する 試料・情報	TMM地域住民コホート調査参加者のうち岩手における参加者約32,000人のコホート情報	
主たる研究機関	岩手医科大学医学部			分担 研究機関	岩手医科大学いわて東北メディカル・メガバンク機構	
研究題目	東日本大震災被災地における食習慣と健康アウトカム、生活習慣との関連			研究期間	2020年3月23日～ 2022年3月31日	
実施責任者	丹野 高三	所属	岩手医科大学衛生学公衆衛生学講座		職位	特任教授
研究目的と意義	東日本大震災被災地域の住民は、家屋損壊や近親者の死亡などの直接的被害だけでなく、極端な環境変化や生活様式の変更、長期間の避難生活によって食習慣や栄養状態の悪化とそれに伴う健康状態の悪化が懸念される。本研究では、地域住民コホート調査の断面データを用いて、被災状況と食習慣との関連や食事回避行動と生活習慣や健康関連アウトカムとの関連について検討する。					
研究計画概要	<p>東日本大震災被災地域の住民は、家屋損壊や近親者の死亡などの直接的被害だけでなく、極端な環境変化や生活様式の変更、長期間の避難生活によって食習慣や栄養状態の悪化とそれに伴う健康状態の悪化が懸念される。</p> <p>本研究では、地域住民コホート調査の断面データを用いて、被災状況と食習慣との関連や食事回避行動と生活習慣や健康関連アウトカムとの関連について検討する。さらにベースライン調査及び詳細二次調査、追跡調査のデータを用いて、被災に伴う食習慣やその変化が生活習慣および健康関連アウトカム(高血圧、糖尿病、脂質異常、メタボリックシンドローム、循環器疾患など)に及ぼす影響度を明らかにする。</p> <p>使用する項目は以下の項目を想定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●食事摂取頻度、ならびに食習慣・食行動等に関する項目 ●被災に関する項目:家屋・浸水被害状況、近親者の死亡、居住地区の変化、居住形態変化(避難所～応急仮設住宅～災害公営住宅)、転居回数、震災による仕事変化、経済状況等 ●その他「食」に影響を与えらると思われる項目:生活習慣/生活様式/健康行動変化/価値観/既往/外出頻度/主観的健康観/ソーシャルネットワーク・キャピタル等 					
期待される成果	本研究によって、被災による食事の量と質の低下やそれに伴う健康関連アウトカムへの影響を明らかにすることによって、将来の虚弱や疾患予防のためのエビデンスが創出され、被災地支援ならびに予防活動に資することが期待される。					
これまでの倫理 審査等の経過	東北メディカル・メガバンク計画全体計画に含まれている。 岩手医科大学医学部倫理委員会承認されている。(HGH25-2及びHG2018-004)					
倫理面、セキュリ ティー面への配慮	岩手医科大学いわてメディカル・メガバンク機構匿名化解析室内への入室を許可された者が同室内のみで、匿名化されたデータを用いて解析し、集計データのみを公表する。					
その他特記事項						
(事務局使用欄)						
* 公開日 令和2年7月22日						
* 岩手医科大学いわて東北メディカル・メガバンク事業に協力された方で、本研究に限って試料・情報の利用を希望されない方は、下記までご連絡下さい。 岩手医科大学いわて東北メディカル・メガバンク機構 019-651-5110(5508/5509)						